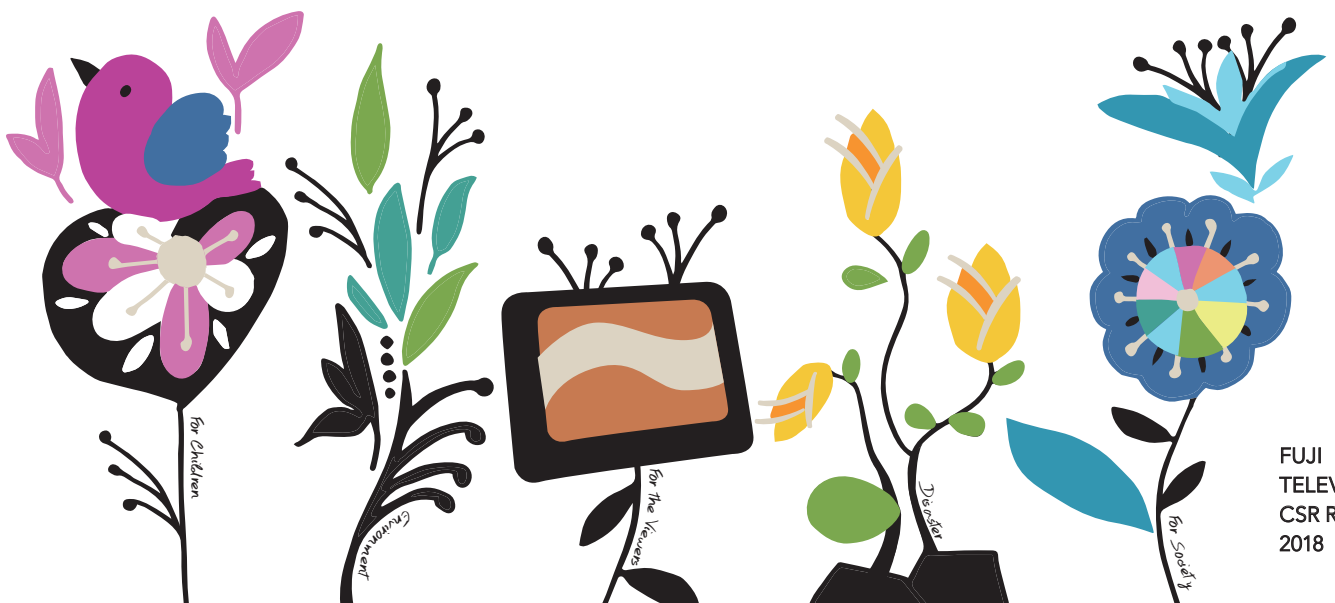


フジテレビ
CSR
レポート



2018





フジテレビのCSR Our Corporate Social Responsibility

CSRスローガン

**わたしたちにできることを、
もっと、もっと。**

私たちの原点は放送です。

テレビを通じて国内外で今、起きていること、

日々の暮らしに役立つ生活情報、

笑いや楽しみ、感動を届けること。

それがメディアの役目。

番組・エンターテインメントを通じて人と人をつなぎ、

そこに夢や希望が生まれ、

明るい未来への懸け橋になれば…

CSR活動も本業を活かし、

フジテレビらしさを大切に

「わたしたちにできることを、もっと、もっと。」

編集方針

本レポートはフジテレビが2017年度に行ったCSR活動をまとめたものです。本業である放送事業とエンターテインメントを活かして、フジテレビらしさを大切に多岐にわたる活動を行ってきました。活動内容はホームページを通じて随時公表していますが、本レポートはより読みやすく、みなさまにご理解頂きやすいように編集しました。ホームページと合わせてご覧下さい。

<http://www.fujitv.co.jp/csr/>

ご意見、ご感想などございましたら是非お寄せ下さい。

フジテレビ総務局 放送文化推進センター CSR推進室

✉ csr.ss@fujitv.co.jp

対象範囲

本レポートにおける対象範囲はフジテレビを基本とし、一部の活動実績は、フジ・メディア・ホールディングス、フジサンケイグループとして実施したものも掲載しています。

対象期間

2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)

※一部2018年4月の活動も含まれます。



本レポートでは、2015年9月に国連サミットで採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals=SDGs)の17の目標に関連する活動にアイコンを付けました。

※SDGsの詳細につきましては34ページをご覧ください。



トップメッセージ Top Message

フジテレビがCSRに取り組み始めて12年になりますが、東日本大震災や熊本地震などを経て、その活動内容は少しずつ変化してきました。また、フジテレビならではの支援活動や社会貢献に対する考え方が、社内に根付いてきたと思います。

そして昨年からフジテレビは、「変える、変わる」をキーワードに大きな変革を迎えようとしています。その流れのひとつとして、フジテレビが中核事業を成すフジ・メディア・ホールディングスは、この4月から国連グローバル・コンパクトに署名しました。そこで示されている理念は、社会の良き一員として、よりよい世界を作るための枠組み作りに参加するという、まさにCSR活動につながるものです。そして今回の署名はフジテレビの本業である放送に新しい風を呼び込むものと考えています。

また2017年8月に放送したドキュメンタリー番組『環境クライシス』は、環境省のオファーを受けてCOP23(国連気候変動枠組条約第23回締約国会議)でも上映され、地球温暖化の影響や官民における日本の取り組みを世界に紹介するとともに、フジテレビのCSRをアピールすることができました。

これからも、放送を通じて社会課題を考えるきっかけを提供し、持続可能な社会の実現に向け「わたしたちにできること」を着実に実行して参りたいと思います。

2018年6月

株式会社フジテレビジョン 代表取締役社長
President and Representative Director

宮内正喜

2018年4月フジ・メディア・ホールディングスは 国連グローバル・コンパクトに署名しました。



国連グローバル・コンパクトとは

各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。1999年の世界経済フォーラム(ダボス会議)の席上でコフィー・アナン国連事務総長(当時)が提唱し、アントニオ・グテーレス現国連事務総長も継続支持を表明しているイニシアチブで、2018年3月時点で世界約160ヶ国・1万3,000の団体(そのうち企業が約9,700)が署名し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開しています。

CSRの取り組み

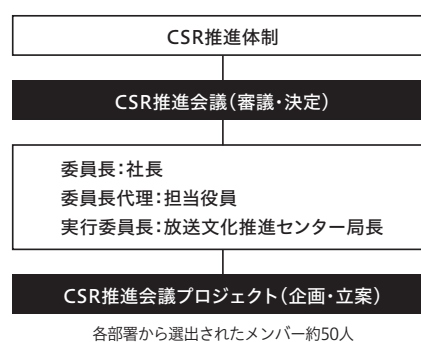
CSR活動方針

フジテレビでは、メディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006(平成18)年6月からCSR専門部署を設け、多岐にわたるCSR活動を行っています。

映像コンテンツ・エンターテインメントを通じて人々に楽しさ、感動を与え、放送文化に寄与するという社会的使命を認識し、それにより世の中の社会課題の解決につなげていくことを目標としています。

CSR推進体制

社長を委員長とする「CSR推進会議」の体制は右記のようになっています。社長・役員・局長が出席する「CSR推進会議」を年1回開催し、年度の活動報告ならびに次年度の活動計画を審議しています。



CSR推進会議プロジェクトチームメンバー

フジテレビのCSR活動の軸となっているのは、各局から選抜されたCSR推進会議プロジェクトメンバーです。月1回、活動報告や情報交換を行う会議を開催している他、週1回の分科会で新しい企画を検討、“ボトムアップ型”のCSR活動を実施しています。またメンバーを毎年入れ替え、社内のCSRに対する理解の浸透を図っています。



2017年度CSR推進会議プロジェクトチームメンバー



私たちが
めざすもの
Our Mission

番組・映像コンテンツ・エンターテインメントを通じて
見る人に感動や笑い、正確な情報をお届けします。

私たちの強みを活かし

創造力と発信力で
creativity communication

社会課題の解決を
めざします。

大切にしていること

Materiality

生きやすい社会のために

地球環境のために

子どもたちの未来のために

被災地を継続支援

伝える責任

視聴者とともに

CONTENTS

特集

ドキュメンタリー番組『環境クライシス』 05

社会のために

ダイバーシティ社会をめざして 07
東京オリンピック・パラリンピックに向けて 09
エンターテインメントで豊かさを 10
テレビ・映画等におけるバリアフリー 11
FNSチャリティキャンペーン 12
高松宮殿下記念世界文化賞 他 13

環境のために

地球温暖化防止のための取り組み 14
リサイクル・省資源への取り組み 15
環境美化活動 15
地球環境大賞 16

子どもたちの未来のために

アナウンサーの出前授業「あなせん」 17
食育出前授業「ハロー!どっこくん」 19
テレビ局の仕事を知ってもらう取り組み 20
次世代のクリエイターを発掘・育成 21
未来のアスリートを育成 21
難病と闘う子どもたちの支援 22
児童養護施設の子どもたちの自立支援 22

災害復興支援・BCP対策

「ずっとおうえんプロジェクト」 23
「こども笑顔プロジェクト」 24
「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」 24
災害報道 -伝える責任- 25
国民に安心・安全を届けるために 26

視聴者とともに

27

人材育成と職場環境

28

マネジメント

29

コーポレート・ガバナンス 29
コンプライアンス 31

第三者意見

33

環境ドキュメンタリー番組

環境クライシス ～沈みゆく大陸の環境難民～を放送

深刻な現状を映像で伝え
環境問題について考えるきっかけを提供

2017年8月19日(土) 10時25分～11時45分



海面上昇によって沈みゆく島で海を見つめる少女ジリック



次々と“環境難民”が流れ着くインド・コルカタ市内のスラム街



気温が50度を超える砂漠で10キロの道のりを歩き水汲みする少女シーマ

地球上で急速に進む気候変動

パキスタンからインド北西部にかけては、2017年以降断続的に熱波が発生、最高気温53.5度が観測されています。日本でも各地で猛暑やゲリラ豪雨に見舞われています。こうした異常気象は、気候変動が原因の一部と言われており、経済大国となりつつあるインドでも、気候変動に伴う洪水や海面上昇・干ばつなどの被害が起きています。そんな現状をリアルに映し出すドキュメンタリー番組を制作・放送し、苦しくてもたくましく生きる子どもたちの姿や、地球温暖化に対し日本が取り組んでいるプロジェクト等も取材・放送しました。



■ 大塚隆広プロデューサー



この番組は、環境への意識を子どもたちの世代に考えてもらうきっかけとなつてほしいとの思いで作りました。難解になりがちな環境問題を、現地に生きる人々の生活をベースに描くことで視聴者と同じ目線で伝えたいと考えました。私たちは気候変動を終わらせることができる最後の世代だとも言われています。ひとりひとりができることを考え実行することが、地球を救うことにつながると思っています。そのためにも環境問題をテーマにした番組を継続して制作していきたいと考えています。



インド・ジャaisalメールの砂漠地帯



COP23のジャパンパビリオン にて 特別上映

2017年11月6日～17日にドイツのボンで開かれたCOP23[国連気候変動枠組条約第23回締約国会議]で、『環境クライシス～沈みゆく大陸の環境難民～』が、日本政府主催のジャパンパビリオンで上映されました。これは日本のメディアとして初めてのことです。上映会は多くの来場者で満席となり、映像で映し出される深刻な現状に釘づけになっていました。



Transformative Action

各国の専門家たち

フジテレビCSR担当と
環境ジャーナリスト
竹田有里さん

ジャパンパビリオン

社会のために

人と人とをつなぐ“メディア”として
地域社会の発展や放送を通じた
コミュニケーション、
人を笑顔にする取り組みなどで
あらゆる人がいきいきと暮らせる
社会の実現をめざします。



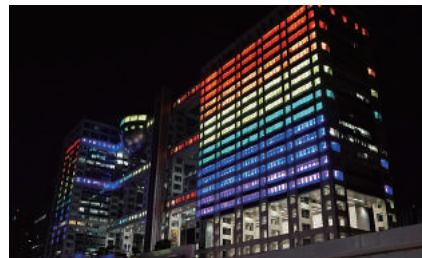
世界自閉症啓発デー

ダイバーシティ社会をめざして

社屋イルミネーション「グリッター8」を活用し社会課題への支援の意志を発信しています。ライトアップにより「知ってもらう」きっかけを提供し、問題解決につなげる目的で始めたプロジェクトです。誰もが偏見や差別を感じることなく、多様な価値を認め合うダイバーシティ社会をめざして、2015年4月より継続しています。

2017年度に実施したライトアップ

- 4月 2日 世界自閉症啓発デー(ブルー)
- 5月 5日 LGBTを含むあらゆる差別・偏見をなくす(6色レインボー)
- 9月21日 国際平和デー 世界平和を考える(白・ピースマーク)
- 10月 1日 乳がんの予防啓発(ピンクリボン)
- 10月16日 臓器移植への理解促進(グリーンリボン)
- 11月 1日 児童虐待防止(オレンジリボン)
- 11月12日 女性に対する暴力の根絶(パープルリボン)
- 12月 1日 世界エイズデー(レッドリボン)
- 1月20日 障害者権利条約が日本で発行された日(イエローリボン)



LGBTを含むあらゆる差別・偏見をなくすための6色レインボー

放送とも連動

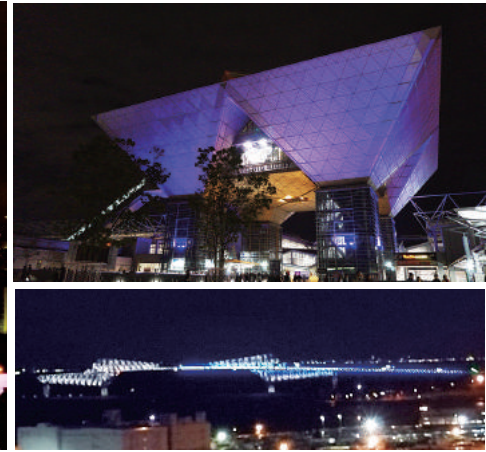


10月16日 ニュース番組で臓器移植の企画を放送



『新・週刊フジテレビ批評』でライトアップの目的等について放送

ライトアップに合わせて番組内で社会課題についての企画を放送したり、この取り組み自体について紹介するなど、放送とも連動しました。



近隣施設や企業とも連動

一緒に
点灯してくれた
施設や企業

東京ゲートブリッジ、東京ビッグサイト
レインボーブリッジ、パレットタウン大観覧車
自由の女神像、デックス東京ビーチ、
乃村工芸社



このアウェアネスカラーの取り組みは、臨海副都心に事業所がある47の会社や団体で構成されている「東京臨海副都心まちづくり協議会」とともに実施しています。臨海副都心のシンボル・自由の女神像や東京ビッグサイト、東京ゲートブリッジなどが同日に同じ色で点灯することで、街全体で支援のメッセージを発信しています。

人権についての理解を深める社内勉強会を開催

人権課題の正しい理解や知識を得ることで番組制作に活かそうと、専門の講師を招き勉強会を開催しました。

■ 拉致被害者・蓮池薫さん講演会

北朝鮮による拉致被害者・蓮池薫氏をお招きし、講演会を開催しました。蓮池さんが目にした北朝鮮の現状や拉致の実態など、当事者しか知りえない内容を語って頂き、拉致問題についての理解を深め、一日も早い拉致被害者全員の帰国の実現を共有する場となりました。

[2017年6月12日]



■ LGBTへの理解を深めるための勉強会を開催

『とんねるずのみなさんのおかげでした30周年記念SP』[2017年9月28日放送]において男性同性愛者を嘲笑すると誤解されかねない表現があったことに対し、多くのご意見を頂戴しました。

これを受けてLGBTに対する正しい理解を深めるため人事研修制度にLGBT等に関する科目を追加することに加え、勉強会を開催。バラエティ、ドラマセクションの制作現場を中心に414人が受講しました。

● 2017年11月15日(179人) / 11月17日(138人)
講師：(株)LGBT総合研究所代表取締役 森永貴彦氏

● 2018年2月8日(97人)
講師：グッド・エイジング・エールズ代表 松中権氏
NPO法人東京レインボープライド代表 杉山文野氏
LGBT法連合会代表 藤井ひろみ氏

国連ウィメン日本協会への寄付

途上国を中心に世界中の女性に教育と労働の場を、と活動する国連ウィメン。SDGsの目標のひとつ「ジェンダー平等」な世界をめざし女性のエンパワメントを行う同協会を支援しています。

社会のために

環境のために

子どもたちの
未来のために

災害復興支援

視聴者とともに

人材育成と職場環境

マネジメント



東京オリンピック・パラリンピックに向けて

2020年に東京で開催される東京オリンピック・パラリンピック。1964年以来56年ぶりに日本で開催されるスポーツの祭典に向け、社内横断プロジェクト「チーム2020」を発足させ、地域とも連携しながら様々なレガシーを残せるよう取り組みを始めています。

『PARA☆DO!』 パラスポーツの魅力をレギュラー番組やイベントで発信!

『PARA☆DO!』は、2020年に向けてパラスポーツのムーブメントを起こし、障害の有無に関係なく誰もが互いを認め合い、いきいきと生活できる共生社会の実現に向けて、パラスポーツを応援していくプロジェクトです。地上波レギュラーの番組では、アスリートやそれを支える人たちの、前向きに挑戦する姿を紹介。また2017年度はイベントでも様々な新しい仕掛けを実施しました。夏のイベント「お台場みんなの夢大陸」では、TOKYO GIRLS COLLECTIONとコラボしたパラアスリートのランウェイを実現したイベントを開催(2017年8月24日)。また11月23日にはTOYOTAとコラボし、アイドルAKB48 Team 8とのボッチャ対決イベントを実現。さらに、平昌パラリンピックのメダリストの凱旋イベントにも、企画制作協力をしました(2018年3月20日)。

『PARA☆DO!』ポータルサイトでは、アーカイブ、SNS、ライブ配信なども展開 <http://www.fujitv.co.jp/sports/parado/index.html>

PARA☆DO!

毎週水曜日22:54~23:00放送(関東ローカル)

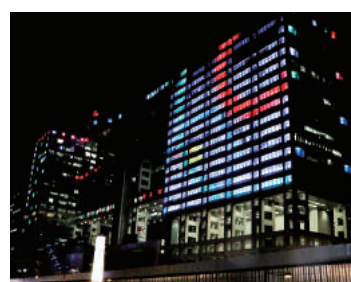


Photo:Kenji Kinoshita



1000日前をライトアップで発信!

社屋イルミネーション「グリッター8」を活用し、東京オリンピックまであと1000日という節目の2017年10月28日夜に、五輪マークの5色をあしらったスペシャルイルミネーションを実施しブームアップに貢献しました。また、東京パラリンピック1000日前の11月29日夜には、パラリンピックのシンボルカラー赤・青・緑をモチーフに、躍動感あふれるライトアップを実施。東京タワー、東京スカイツリーも赤・青・緑にライトアップされ、この日の様子は、夜のニュース番組『THE NEWS α』でも放送しました。



「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」に参加



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルを使用済みの小型家電から製作するプロジェクトに、フジテレビがメディアとして初めて参加。フジ・メディア・ホールディングス各社にも呼びかけをし、不要になった携帯電話などの小型家電の回収をスタートさせました。

エンターテインメントで豊かさを

地域社会とともに

家族連れや外国人旅行者などでにぎわう臨海副都心(お台場)。このエリアのランドマーク的存在であるフジテレビは、地域の発展のために、イベント等を通じた集客など、魅力あふれるまちづくりに貢献しています。

夏の大型イベント「お台場みんなの夢大陸」

2017年の「お台場みんなの夢大陸」は、フジテレビお台場移転20周年感謝祭として、お客様へ感謝の気持ちをお届けすべく、全社一丸となって取り組みました。“社員ミストマン”など社員参加企画を設け、汗をかき楽しみながら48日間で405万人のお客様をお迎えしました。『今夜はナゾトレ』など番組と連動したブースをはじめ『コード・ブルー』のVR体験、10年目となった「めざましライブ」、また「居酒屋えぐざいるPARK」にも多くのファンが訪れました。[2017年7月15日～8月31日]



熱中症を防ぐために社員がミスト状の水をまいて、来場者に涼しさを提供



居酒屋えぐざいるPARK

ダイハツ キュリオス

シルク・ドゥ・ソレイユ創設30周年を記念して制作され、早くも世界で300万人以上の動員を記録しているシルクの人気作品を、2018年2月から7月までとこれまで以上のロングラン公演にてお台場で実施、地域活性化に貢献しています。また、会場内までの全ての経路にスロープを付けバリアフリー化、会場内に出るゴミの分別・削減の徹底などにも取り組んでいます。

[2018年2月7日～7月8日]



Photos: Martin Girard, Pierre Manning / shootstudio.ca © 2014 Cirque du Soleil

その他のイベント

スーパー歌舞伎II「ワンピース」

スーパー歌舞伎と大ヒットマンガ「ONE PIECE」がコラボし、初演で全国20万人を動員した大ヒット歌舞伎の再演。壮大な世界観と重厚な物語性を併せ持った本公演は、これまで歌舞伎に接する機会がなかった若い世代をも取り込み、幅広い年齢層に楽しんで頂きました。

[東京公演(新橋演舞場)
2017年10月1日～11月25日]
[大阪公演(大阪松竹座)
2018年4月1日～4月25日]



©スーパー歌舞伎II「ワンピース」パートナーズ

怖い絵展

「恐怖」という新しい切り口で集められた約80点の西洋絵画・版画を展示し、7月スタートの兵庫展に続き、東京展でもブームを巻き起こし、東京展の来場者数41万人を記録しました。また、「恐怖」をさらに深く読み解くための音声ガイドも人気を博し、耳の不自由なお客様にも楽しんで頂けるように音声ガイドのスク립トの貸し出しを実施しました。

[兵庫県立美術館 2017年7月22日～9月18日]
[東京・上野の森美術館 2017年10月7日～12月17日]



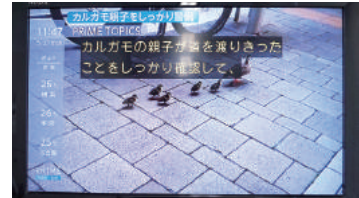


テレビ・映画等におけるバリアフリー

字幕放送

7時～24時のすべての収録番組[生放送以外の番組]に字幕を付与しています

字幕放送とは、主に聴覚障害者や高齢者などテレビの音が聞こえにくくなった方々にテレビ番組を楽しんで頂くために、テレビの音声を[文字]にして画面に表示する放送のことです。ドラマのセリフやバラエティ番組のトーク部分はもちろんのこと、携帯電話が鳴る音などの効果音も字幕で表示し、番組内容を十分ご理解頂けるようにしています。生放送番組については、ニュース、情報番組を中心に[生字幕=ほぼリアルタイムで字幕をつけること]の付与を進め、さらに生放送のバラエティや、長時間に及ぶスポーツ中継などについても積極的に字幕を付けています。



字幕放送

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.fujitv.co.jp/company/action/jimaku.html>

2016年度実績	付与可能時間に対して総務省が定めた目標値 98.9% →	フジテレビの付与実績 100.0%(+0.3)
	総放送時間に対して総務省が定めた目標値 53.1% →	フジテレビの付与実績 57.3%(+0.1)

()内は前年比

解説放送

「解説放送」は、主に目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行うものです。セリフだけでは伝えきれない場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明しています。今後もより多くの番組に解説放送を付与できるよう促進に努めて参ります。

■ 解説放送付与番組

『ワンピース』『はやく起きた朝は…』『ちびまる子ちゃん』『サザエさん』『MUSIC FAIR』、金曜や土曜の単発ドラマや邦画など

2016年度実績	付与可能時間に対して総務省が定めた目標値 8.43% →	フジテレビの付与実績 12.20%(+2.19)
	総放送時間に対して総務省が定めた目標値 3.73% →	フジテレビの付与実績 4.10%(+0.55)

()内は前年比

映画

2017年度に公開したすべての映画に日本語字幕を付けました

(後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕をつけています。)

視覚障害者のお客様にも映画をお楽しみ頂けるよう「音声ガイド」を付けたバリアフリー上映も増え、2017年度は5作品に付与しました。

『帝一の國』『昼顔』『三度目の殺人』『ミックス。』『今夜、ロマンス劇場で』

「音声ガイド」とは、映画の視覚的な情報を補うナレーションです。視覚障害者は、映画の音や台詞を聴き、映像を想像しながら楽しめます。その想像をより豊かにするのが、音声ガイドの役割です。



『昼顔』
©2017フジテレビジョン
東宝 FNS27社



『三度目の殺人』
©2017フジテレビジョン
アミューズ ギャガ

DVDにおける字幕 ドラマをDVD化する際には、制作時に聴覚障害者向けに字幕を付けています。

CM字幕放送対応 単一スポンサーよりも調整に手間のかかる、複数社提供の番組枠での放送も軌道に乗り、さらに送出可能な枠を多く設けられるよう検討を進めています。

手話放送 『テレビ寺子屋』(毎週日曜日5:10～5:40放送)にて手話放送を行っています。



世界の子どもたちの貧困解決に向けて FNSチャリティキャンペーン

FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマに実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社及びBSフジが放送やイベントを通じて募金活動を行い、日本ユニセフ協会を通じて国際貢献を行ってきました。40年以上に及ぶ活動の募金総額は約42億円に達しており、アジア・アフリカなど世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。



第44回 2017年度の支援国 **ボリビア多民族国**

2017年度は、南米中西部に位置する内陸国・ボリビアを支援しました。ボリビアは、天然資源に恵まれ、近年は年間4～5%の経済成長をとげていますが、今なお南米で最も所得水準が低い国のひとつで、国民の半数が貧困層に属していると言われています。最も深刻な社会問題のひとつが児童労働で、人口約1,080万人のうち、約50万人の子どもが働いています。路上での靴磨きや露店などで働いている子どももいれば、より危険な農場や鉱山などで厳しい労働を強いられている子どももいます。また働く子どもの58%が14歳未満です。過酷な環境で暮らす子どもたちを支援するため『とくダネ!』の内野泰輔アナウンサーと取材班は2週間にわたり現地取材、5月23日と30日の『とくダネ!』で放送し、協力を呼びかけました。また全国のフジテレビ系列局とともに様々な募金活動も行いました。



2017年度の主な活動



番組による募金活動

- 『とくダネ!』内で内野泰輔アナウンサーによる報告
- 『“天空の鏡”に映らない子どもたち～ボリビア多民族国～』フジテレビ系列局の地上波とCS・フジテレビTWO/NEXT、BSフジで放送

イベントにおける募金活動

- 内野・山中・森本・佐々木アナ歴代の取材アナ4人によるパネルディスカッション「私たちが取材した子どもたち」を開催
- 内野アナによる現地取材報告講演会
- 「ふるさと祭り東京2018」会場 全国地酒ブース
- 「お台場みんなの夢大陸2017」でのフリーマーケット
- 「トーテム」及び「キュリオス」会場内「くるくる募金箱」

フジテレビ製作の映画収益からの寄付

映画『昼顔』の収益から総額600万円を寄付

社内交流イベントによる募金活動

2017年4月と2018年3月に社員食堂で、チャリティフェスタ「ちよい呑み」を開催。売り上げ(経費を除く)を全額寄付
4月:35万8,636円 / 3月:41万60円 合計76万8,696円

2017年度の最終寄付金額 **3,657万1,662円**

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に活用されます。



フジサンケイグループの取り組み

世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与 高松宮殿下記念世界文化賞

高松宮殿下記念世界文化賞
PRAEMIUM IMPERIALE
IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU

「高松宮殿下記念世界文化賞」は、公益財団法人日本美術協会により1988年に創設された、全世界の芸術家を対象にした顕彰制度です。故高松宮殿下の「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」とのご遺志にもとづいて、協会創立100周年を記念して創設されました。文化芸術の振興こそが人類の平和と繁栄に資するとして、国境や民族の壁を超えて、芸術の発展、普及、向上に顕著な貢献をした個人、団体を顕彰しています。

賞は絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門で、受賞者には金メダルと賞金が授与されます。また次世代を担う若手芸術家の活動、行動計画を援助し奨励することを目的に1997年「若手芸術家奨励制度」が創設され、若手芸術家を育成援助している団体、または若手芸術家の団体・個人を対象に奨励金を授与しています。これまでの受賞者数は29ヶ国、149人で、フジテレビは同賞の趣旨に賛同し、創設以来社を挙げてサポートしています。



2017年10月18日 常陸宮殿下をお迎えして明治記念館で行われた式典の様相

■ 第29回受賞者[2017年] 写真左から

- 演劇・映像部門 ミハイル・バリシニコフ (アメリカ/ラトビア)
- 音楽部門 ユッサー・ンドゥール (セネガル)
- 絵画部門 シリン・ネシャット (イラン/アメリカ)
- 建築部門 ラファエル・モネオ (スペイン)
- 彫刻部門 エル・アナツイ (ガーナ)

詳しい内容につきましては世界文化賞公式HPをご覧ください。
<http://www.praemiumimperiale.org/ja/>



『高松宮殿下記念世界文化賞特番』を放送

フジテレビ 2017年10月26日 24:25~24:55 / BSフジ 2017年10月28日 17:00~17:30

日本の広告文化の向上と広告界の発展に寄与

フジサンケイグループ広告大賞

「フジサンケイグループ広告大賞」は、日本の広告文化の向上と広告界の発展に寄与すべく、1971年にフジテレビを中心として創設されました。賞の運営は、グループの媒体各社が中心となり、2017年4月11日に第46回贈賞式が行われました。

環境のために

全社をあげた省エネ、省資源の取り組みや花や緑あふれる美しい街づくりを目的とした活動を継続しています。



花と緑のフラワーフェスタ

地球温暖化防止のための取り組み



フジテレビでは、地球温暖化防止のための温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでいます。

東京都の環境問題対策に関する指針「総量削減義務と排出量取引制度」に沿って、より大幅なCO₂削減を定着・展開するため、第2計画期間(2015年～2019年)の削減義務率15%に向けて省エネ機器の導入やクールビズ、ウォームビズなどの対策を実施しています。

2017年度の結果として、

フジテレビ本社ビルの二酸化炭素CO₂の排出量は22,466(速報値)トンで、15%の削減目標を大きくクリアし26%削減を達成しました。

3Rの取り組み



全社で地球環境改善のための取り組みを実施

1. **リサイクルのためのゴミ分別**
オフィス内でゴミの11分別を実施。
2. **リサイクル**(封筒、手提げ袋、文房具用品等の使いまわし)
3. **CO₂を削減**(スイッチオフによって電気の使用量を削減)
の3つを柱とした3Rを推進しています。

お台場議定書

フジテレビ環境行動計画を「お台場議定書」と名付け活動の柱としています。[2007年策定]

私たちは地球環境のためにできることは何かを考え、身近な生活の中でひとりひとりができることを実行するのはもちろん、企業としても環境に配慮した活動を行っています。

- 1 一緒にエコ考えよう
- 2 一緒にエコしよう
- 3 一緒にエコ確かめよう

社内の『3R』

REDUCE REUSE RECYCLE

(リデュース):発生抑制 (リユース):再利用 (リサイクル):再生

2017年度の
ゴミ分別率は **80.8%**
と目標80%をクリアしました。





リサイクル・省資源への取り組み

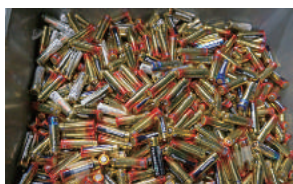
全社をあげて大規模なフリーマーケットを開催

毎年夏のイベント期間中の8月8日「フジテレビの日」に、本社屋にてチャリティ・フリーマーケットを開催しています。社員が持ち寄った品物を、社員・スタッフが総出で販売。掘り出し物を狙って、開始前からお客様が列を作って並ぶほどの人気イベントです。2017年の売上は115万7,218円となり、全額をFNSチャリティキャンペーンに寄付しました。[2017年8月8日]



不要になった電池等をリユース

番組制作のために乾電池を多く使用しますが、一度使用したものは機材への再利用が難しいため、まだ使用できる乾電池は社内で配布してリユースしています。不要になった放送機材は、可能なものはリユースし、リユースできない機材は金属としてリサイクルに出しています。この結果、廃棄物を減らすことに貢献しています。



廃材処理を通じた環境への取り組み

美術制作局では、番組セットなどを廃棄する際、処理を大道具制作会社に委託せず、全番組の廃材をまとめて廃棄事業者へ直接委託する「一括処理」を行っています。この取り組みは2010年以来続けられていて、排出事業者としての責任を全うすると同時に、リサイクル率向上と処理費用の低減につなげています。

環境美化活動

地域の美化活動に積極的に参加しています！

お台場エリアの清掃活動を継続しています。フジ・メディア・ホールディングス全体での合同清掃活動を年3回開催する他、このエリアに事業所がある会社・団体からなる「東京臨海副都心まちづくり協議会」の清掃活動にも毎回参加するなど、地域の美化に貢献しています。



お台場エリアをより美しく快適に

「東京臨海副都心まちづくり協議会」の環境事業の一環として、「花と緑のフラワーフェスタ」に毎回参加しています。2017年11月21日には26社から131人の社会人と武蔵野大学の学生約300人が参加し、青海地区に約10万球のチューリップ球根を植えました。都会にしながら季節感や華やかさを感じられる新たな景観づくりを行っています。

また、暑さ対策として2017年7月20日には11社64人で「打ち水日和」プロジェクトに参加し、昔ながらの知恵を分かち合いました。





フジサンケイグループの取り組み

地球温暖化防止や環境保全に熱心に取り組む企業などを表彰 地球環境大賞

地球環境大賞
Since 1992

「地球環境大賞」は、フジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、世界自然保護基金(WWF)ジャパンの特別協力を得て、1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。

2017年4月10日には第26回目の贈賞式が行われ、今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しています。フジテレビは、この「地球環境大賞」をサポートすることにより「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に役立ちたいと考えています。



秋篠宮ご夫妻をお迎えして東京・元赤坂の明治記念館で行われた授賞式

第26回受賞者

- 地球環境大賞 富士通株式会社
窒化ガリウムを活用した世界最小・最高効率のACアダプター開発 [温室効果ガス削減への貢献]
- 経済産業大臣賞 積水ハウス株式会社
- 環境大臣賞 レンゴー株式会社
- 文部科学大臣賞 香川県立多度津高等学校
- 国土交通大臣賞 大和ハウス工業株式会社
- 日本経済団体連合会会長賞 大日本印刷株式会社
- フジサンケイグループ賞 キリンホールディングス株式会社
- 奨励賞 アエラホーム株式会社
- 奨励賞 特定非営利活動法人アースライフネットワーク



富士通株式会社 田中達也代表取締役社長

詳しい内容につきましては地球環境大賞公式HPをご覧ください。 <http://www.fbi-award.jp/eco/>

特別番組『地球環境大賞2017～東大生100人×“ニッポンの未来”～』

フジテレビ 2017年6月17日 10:45～11:45 / BSフジ 6月24日 15:00～16:00 放送

「環境について詳しく知らない人が多すぎる。このままでは、その先の改善につながっていかない」そんな思いから、ひとりひとりが自身の視点で環境問題を考え、できることから実行することで、環境への関心を高め、新たな成果を生む原動力になるというコンセプトで番組を制作。受賞企業・団体の優れた取り組みをわかりやすく紹介しました。



社会のために

環境のために

子どもたちの未来のために

災害復興支援

視聴者とともに

人材育成と職場環境

マネジメント



子どもたちの 未来のために

子どもたち・若者は未来を担う大切な宝です。私たちは若い世代を社会全体で大切に育て、明るく健康な成長をサポートしたいと願っています。



生野陽子アナウンサー

アナウンサーによる出前授業 「あなせん」プロジェクト

“伝えるプロ”が

出前授業を通じて子どもたちの
コミュニケーション能力の向上に貢献

「あなせん」(=アナウンサー先生)は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートした出前授業です。子どもたちのコミュニケーション能力の向上のお手伝いをしたいという思いから企画され、ここ数年はキャリア教育の要素も盛り込み、ニーズに即して発展させてきました。

実施エリア:フジテレビの放送圏内(関東1都6県)



私たちが大切にしているのは、Face to Faceのコミュニケーション。「伝え合う力」は「生きる力」につながると信じて13年間活動を継続



近年、携帯やスマートフォンなどの普及により、子どもたちのコミュニケーション能力の低下が指摘されています。話し方、聞き方、伝え方の「コツ」を現役のアナウンサーが教えるとともに、キャリア教育の一環としてテレビ局の仕事を知ってもらう機会を提供しています。

対象:小学校3年生~6年生

講座内容:[スピーチ][インタビュー][音読]

「あなせん」ホームページ <http://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>

技術チームや他団体とのコラボレーションによる発展的な取り組み

■ 系列局にて「あなせん」を展開
[岩手めんこいテレビとコラボ]



盛岡市の本宮小学校で岩手県初の「あなせん」

■ 東京文化会館のアウトリーチに参加
[木管五重奏アンサンブルミクストとコラボ]



朗読と生演奏のコラボレーション「くるみ割り人形」

■ 技術チームと「あなせん」のコラボ授業を開催



千葉市美浜区の真砂西小学校で「テレビ技術の仕事」と題した出前授業を実施。カメラ、音声機材などに触れて子どもたちは大喜び!

■ 2017年度 授業実施校

江東区立大島南央小学校	東京音楽大学	横浜市立日吉南小学校
品川区立中延小学校	江東区立第三大島小学校	中央区立豊海小学校
千代田区立昌平小学校	横浜市立都田西小学校	足立区立中川東小学校
日光市立落合西小学校	品川区立三木小学校	盛岡市立本宮小学校
渋谷区立千駄谷小学校	西東京市立碧山小学校	台東区立忍岡小学校
千葉市立真砂西小学校	港区立芝浦小学校	江東区立第二亀戸小学校



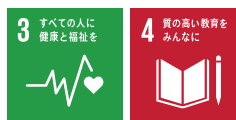
子どもたちから
届いた
お礼の手紙

イベントでの実施 3月「フジテレビで遊ぼう!」 ※20ページ参照

2017年度 **18**ヶ所 約 **1,760**人 を対象に実施
(イベントでの開催分は含まず)

2005年からの累計 **211**ヶ所 約 **15,730**人





子どもたちの明るく健康的な育ちをサポート 食育出前授業 「ハロー!どっこくん」



子どもたちに食の大切さを伝える楽しいイベントを全国展開

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせや「どっこくん体操」などで構成された楽しいプログラムです。2010年にCSR活動の一環としてスタートし、全国に広がっています。



みんなで「どっこくんポーズ」

2017年度は **22**ヶ所に伺い
3,281人の子どもたちと出会いました! (26回開催)

2017年度 開催実績

- 高知県 高須第2幼稚園
- 高知県 春花まつり
- 鹿児島県 すこやかふれあいフェスティバル
- 東京都 上石原保育園
- 東京都 琴平学園
- 愛知県 柏森南保育園
- 愛知県 西部保育園
- 東京都 亀高保育園
- 千葉県 柏幼稚園
- 千葉県 舞浜認定こども園
- 東京都 アンジェリカ月島保育園
- 岩手県 めんこいまつり
- 神奈川県 まなびの森保育園宮前平
- 熊本県 山都みらい保育園
- 熊本県 こどもキッチン(川尻小学校 体育館)
- 東京都 江戸川百合幼稚園
- 愛知県 大口中保育園
- 愛知県 山崎保育園
- 千葉県 富岡幼稚園
- 福岡県 長住保育園
- 福岡県 大日保育園
- 熊本県 子育てすくすく☆こども博2018



オリジナルホームページも充実!

「どっこくん体操」や「快ウんおみくじ」がスマホ・タブレットからも楽しめます。
出前授業のお申込みもこちらからどうぞ!

「ハロー!どっこくん」

ホームページURL

<http://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/index.html>



2010年2月～これまでに

161ヶ所に伺い 約 **18,690**人を対象に実施
(2018年4月1日現在)

テレビ局の仕事を知ってもらう取り組み

春休み子どもイベント「フジテレビで遊ぼう！」 ～本物にふれるワクワク体験～



お台場フジテレビ本社にて、春休み子どもイベント「フジテレビで遊ぼう！」を2016年度に引き続き開催しました。「あなせん」(17～18ページ参照)や、テレビ技術体験・VR体験・中継車試乗体験・社内見学ツアーなど、テレビ局ならではの様々な催しを行い、約500人に楽しんでもらいました。 [2018年3月28日]



社内見学ツアー 「のぞいてみよう!フジテレビ」

「テレビ局ってどんなところ?」そんな好奇心に応えるため、小学5年生から大学生までのグループを対象に社内見学ツアーを行っています。番組のスタジオ・美術セットが並ぶ倉庫・技術エリアなど、テレビの舞台裏をのぞいて放送が視聴者のもとに届くまでの仕組みを楽しく学びます。 [2017年度 見学ツアー参加者4,179人]



夏休みに「縄電車deのぞいてみよう!フジテレビ」を実施

通常は学校単位の「のぞいてみよう!フジテレビ」ツアーを、夏休み特別編「縄電車deのぞいてみよう!フジテレビ」として開催しました。4日間で8回のツアーに996人の応募があり、306人が当選。通常の見学に加え、本番後の『バイキング』のスタジオでカメラに触れたり、スタジオ副調整室の機材を実際に操作するなど、テレビ技術の一端を体験することでテレビ局の仕事を知ってもらいました。 [2017年8月17日・18日・25日・28日]



次世代のクリエイターを発掘・育成

若い世代の放送文化への興味と理解を広げ、次世代のクリエイターを育てる取り組み

「第29回ヤングシナリオ大賞」

この賞は次世代の才能を発掘、育成するために1987年に設立されました。選考員は実際にドラマに携わるプロデューサー、ディレクターが多いため、大賞に選ばれなくとも選考過程でクリエイターの目にとまり多数のシナリオライターが誕生しています。これからもドラマの可能性を広げる一助として活動を続けていきます。第29回は応募総数1,686編。大賞は宮崎翔さんの『リフレイン』。映像化され、2017年12月18日に放送されました。



「第4回 ドラマ甲子園」



高校生のための脚本・演出家発掘プロジェクト。大賞作品は、執筆した高校生本人の演出でテレビドラマ化されます。第4回ドラマ甲子園大賞受賞作品『青い鳥なんて』は、高校生たちの“青い鳥”をめぐる夏休み最後の1日の出来事をリアルに描いた作品。また作品が出来上がるまでの監督に密着したメイキング番組も「フジテレビTWOドラマ・アニメ」で放送され話題になりました。若い才能を応援し、次世代クリエイターの発掘と育成をめざして、これからも高校生たちを支援していきます。



未来のアスリートを育成

「春高バレー」

「全日本バレーボール高等学校選手権大会」として高校バレー日本一を決定するこの大会を日本バレーボール協会、全国高等学校体育連盟とともに主催、全試合をテレビ中継制作し放送しました。地上波での放送、及びBSフジでの決勝ハイライト放送、そしてCS放送ではフジテレビONE/TWO/NEXTで1回戦から決勝までの男女全102試合を放送。さらに準決勝までの全試合をインターネットでライブ配信[※]し、決勝戦も試合当日に配信を行いました。東京2020に向け、新たなスター誕生への期待を込めて、「春の高校バレー」をより多くの視聴者にお届けし、バレーボールの普及・発展、及び次世代アスリートたちの育成に貢献しています。

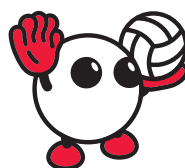


[2018年1月4日～8日]

※フジテレビONEsmart/TWOsmart/NEXTsmart+特設チャンネル

「バボキャラ」

三屋裕子さんを始めとするバレーボールの元全日本選手が全国の高校チームに赴き、コーチングをレクチャー。その教えを基に高校生が地域の小中学生にバレー指導をするバボキャラ。被災3県の復興支援活動を主目的とし、バレーボールを通じた地域の活性化、バレーボールの普及、青少年の育成をめざします。2017年度は被災3県に加え、大阪、沖縄まで活動の拠点を広げました。はじめは指導の難しさに緊張気味だった高校生も徐々に指導のコツをつかみ、終わる頃には弾けるような笑顔で小中学生にふれあい、指導していました。2018年度もバレーを通じた絆を全国へ広げていきます。



難病と闘う子どもたちの支援

「そらぷちキッズキャンプ」

フジテレビは「そらぷちキッズキャンプ」の活動趣旨に賛同し、2009年から朗読会や食育イベント開催などで支援を行っています。また「東京マラソン」のチャリティランの寄付先にもなっているため、フジテレビが中継を担当する年は放送を通じて紹介するとともに、沿道で応援する過去のキャンプ参加者をサポートしています。2月25日放送の『東京マラソン2018』市民マラソンの部では、「そらぷちキッズキャンプ」について紹介するコーナーを設けるなど、多方面からサポートしました。



■ そらぷちキッズキャンプとは？

北海道滝川市にある医療施設を完備したキャンプ施設。小児がんや心臓病などの難病と闘う子どもたちやその家族が、自然の中で笑顔で楽しい時間を過ごせるようにとつくられました。2016年10月に国際難病児キャンプ団体「シリアスファンチルドレンズネットワーク」のフルメンバーの資格をアジアで初めて取得しました。

■ キャンプの様子を紹介する写真展を開催



2018年
2月20日から
3月2日
写真と説明パネル
約25点を展示

フジテレビ・シアターモールにて

児童養護施設の子どもたちの自立支援

夢を語るスピーチコンテスト「カナエール」

児童養護施設退所後、夢の実現のため進学をめざす子どもたちのスピーチコンテスト「カナエール」(企画・運営:NPO法人ブリッジフォースマイル)の活動を2012年からサポートしています。「カナエール」はスピーチコンテスト出場を通じて、子どもたちのコミュニケーション能力を向上させ、様々な大人との交流の場を持たせる奨学金制度です。18歳、19歳の子どもたちが思い描く夢、未来の自分の姿をできるだけわかりやすく、伝わりやすいように、発声・滑舌練習、抑揚のつけ方などを現役アナウンサーが指導しました。



スピーチ指導をする西山喜久恵アナウンサー



7月1日横浜大会



7月8日東京大会

■ ブックフォースマイルを通じた寄付も行っています！

不要になった書籍などを児童養護施設の子どもたちの支援に充てる取り組み「ブックフォースマイル」に協力しています。

2017年度は、820冊を寄付し、59,484円が支援に充てられました。



災害復興支援 BCP対策

災害で大きな被害をうけた地域に伺い
テレビ局らしいイベントなどを
開催することで、被災地の“心”の
復興をサポートしています。



©長谷川町子美術館

オリジナルの被災地復興支援活動を展開

「ずっとおうえんプロジェクト」

フジテレビ
ずっとおうえん。
プロジェクト

フジテレビでは、2011年の東日本大震災発生後から被災地復興支援活動を継続しています。被災地を「ずっと忘れない」という強い思いと、エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、“新たなコミュニティづくり”のお手伝いをしています。2017年度は東日本大震災の復興支援の一環として、サザエさん一家による「東北・みやぎ復興マラソン」応援のサポートや、九州北部豪雨で被災した福岡県朝倉市や大分県日田市で映画『ミニオンズ』の上映会を実施しました。



「東北・みやぎ復興マラソン」をサザエさん一家が応援

2017年度実績 8ヶ所 約3,210人を対象に27回実施



2017年度は九州北部豪雨で被災した福岡県朝倉市や大分県日田市で映画『ミニオンズ』の上映会を実施



- ・「仙台放送まつり」にサザエさんが登場
6月24・25日 宮城県仙台市勾当台公園
- ・「ハロー!どっこくん」
11月5日 「めんこいまつり」岩手県盛岡市
- ・『ミニオンズ』上映会
8月26日 福岡県朝倉市杷木中学校
11月26日 大分県日田市大鶴公民館
12月15日 熊本県山都町山都みらい保育園
12月16日 「こどもキッキングルービー」
熊本県熊本市川尻小学校
- ・「東北・みやぎ復興マラソン」をサザエさん一家が応援
9月30日・10月1日 宮城県岩沼市
3月31日・4月1日 「こども博2018」
熊本県益城町グランメッセ熊本

2011年～開催累計

187ヶ所 約21,830人

(2018年4月1日現在)

継続的な支援活動

テレビ美術の力で被災地に笑顔を

「こども笑顔プロジェクト」

フジテレビ美術制作局と美術関連協力会社からなる「八美会」で立ち上げた被災地復興支援活動。2017年度は4月22日に福島県会津若松市の大熊町立大熊中学校で開催しました。「被災から6年、震災の記憶が徐々に風化していく中、こうしたイベントを継続し、忘れずに訪れてくれるのは本当に嬉しい」と喜んで頂き、改めて地道に継続することの大切さを知ることができました。



これまで計6回実施

- 2013年10月 岩手県大船渡市
- 2014年 4月 宮城県名取市
- 2014年10月 岩手県宮古市
- 2015年 4月 伊豆大島
- 2016年 4月 福島県南相馬市
- 2017年 4月 福島県会津若松市

(2018年3月末現在)



輪ゴム銃づくり



のこぎり体験



福島県会津若松市 大熊町立大熊中学校

フジ・メディア・ホールディングスで桜の苗木を寄付

「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」

地震や津波、さらに放射能被害を受けた福島県で「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を」との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」に、フジ・メディア・ホールディングス(FMH)各社は2013年度から協賛しています。2017年度はディノスの顧客や、FMH各社などから合わせて桜155本分の寄付をし、これまでの植樹本数は1,022本になりました。2018年1月20日には、FMH各社から14人が南相馬市で桜の苗木を植えました。



社会のために

環境のために

子どもたちの未来のために

災害復興支援

視聴者とともに

人材育成と職場環境

マネジメント



災害報道 一伝える責任一

東日本大震災から7年・熊本地震から1年の現状を放送

公共性の高いメディアであるテレビ局にとって、震災などの災害報道は重要な「使命」と認識し、常に「迅速」かつ「正確」な報道を心がけています。震災報道の基本姿勢を定め、国民の命を守るための報道、即応体制の構築、災害の記憶を風化させないための継続的な報道などに努めています。取材にあたっては、被災した方の感情に配慮することを常に心がけ、その気持ちを理解し寄り添うことを大前提としています。

『FNN3・11報道特番 その避難は正解か!?!』

東日本大震災で「その場所に避難しろ」と言われ逃げた人たちがその“避難先”でなぜ命を失ったのか。坂上忍氏が去年に引き続きキャスターとして出演。宮城県石巻市を訪れ、生存者の方たちの証言を聞きました。情報制作局と共同制作し津波検証企画『わ・す・れ・な・い』を特番内で放送。残された独自映像で生死を分けた「避難」というものを考えました。行政や勤務先から指定されている避難場所が正しいのか?どのような場所なのか?を実際に東京都葛飾区の避難場所まで歩き実験・検証しました。また、かつて「差別」され売れていなかった福島県の野菜が7年を経た今、消費者からどのような意識で受け止められているのか、さらに番組独自で福島を含む各地方の放射線検査を行い、現状を取材しました。

[2018年3月11日 13:00~15:10放送]



朝の情報番組『めざましテレビ』で被災地の現状を報告



『めざましテレビ』では、震災を風化させないように、被災地の“今”を独自の切り口で伝え続けています。熊本地震から1年経った2017年4月、「がまだせ(がんばれ)!熊本」と題し1週間に渡りキャスターや木曜パーソナリティの伊野尾慧さん(Hey!Say!JUMP)が被災地に赴き、1年後の現状をレポート。また「キラビト」のコーナーでも、熊本で輝く人たちにスポットをあてた企画を1週間放送しました。4月14日には三宅正治アナ、永島優美アナが熊本城内から中継。熊本の“今”を伝えました。また、2018年3月7日~9日には、「東日本大震災 被災地の若者たち7年目の主張」をテーマに、永島アナ、久慈アナ、伊野尾慧さんが、岩手、宮城、福島の3県に住む若者たちを取材、被災地で頑張る若者たちの様子を伝えました。



バラエティ番組で被災地口ケ



『バイキング』では、東北の被災地を訪問して坂上忍氏がお手伝いする旅を2018年3月5日~9日の5日間放送。今回は福島県に赴き、津波の被害にあったフードテーマパークをはじめ、保育園やトマト農園、老舗旅館でお手伝いをし、福島のみなさんと笑顔で触れ合いました。また『めっちゃイケてるッ!』では、メンバーたちが初めて番組内でネタ対決する企画をトークネットホール仙台で収録。震災後から続けている「東北復興企画」の一環で、仙台放送の協力のもと、約400人の観覧希望者を無料で招待しました。また、震災直後から交流が続いている「南三陸さんさん商店街」のみなさんにも観覧して頂きました。[2018年3月3日放送]

国民に安心・安全を届けるために

いかなる場合も放送を継続する責任

FNN大規模災害訓練放送

系列各局と協力して毎年大規模な災害訓練放送を実施しています。2017年度は、2017年11月から運用が始まったばかりの南海トラフ地震に関する臨時情報が発表された場合を想定し、特別番組放送をシミュレートしました。実際の運用事例がまだない中で、臨時情報に初めて接する視聴者にいかにわかりやすく伝えていくのかは今後も更なる検討が必要で、訓練で浮かび上がった問題点を分析し各局の態勢作りに活かしています。

春と秋に「防災ウィーク」を実施

放送を継続することは、メディアとしての重要な使命です。そのため、2011年から「防災ウィーク」と称し、社内で働く社員・スタッフを対象とした1週間にわたる防災訓練を毎年春と秋に行っています。いずれも5日間にわたって実施し、多くの社員・スタッフが参加。2017年度は各部署のニーズに合わせた実践的なオンデマンド訓練や「3・11を忘れない」ために東日本大震災発生時の社屋の様子を映像で流すなどしました。



災害発生時のライブ配信を強化 FNNニュースサイトとアプリ

毎日のニュースを無料で視聴できるウェブサイトとスマホアプリのサービス。ニュース速報や災害関連情報(地震・津波・火山・河川氾濫・避難情報など)をプッシュ通知でお知らせします。また、ライブ配信のサービスも拡充され、重要災害発生時には同時に最大4チャンネルのライブ映像を使い、被災地(複数都道府県)の状況を速やかに伝えることが可能になりました。



『ホウドウキョク・週刊安全保障』で北朝鮮情勢を世界に発信！

アメリカで毎年行われている音楽や映画、テクノロジー分野で世界最大級のイベント「SXSW(サウス・バイ・サウスウエスト)」の公式セッションで、日本メディアとして初めてネットニュース『ホウドウキョク』から能勢伸之解説委員が登壇しました。

セッションでは、『ホウドウキョク』の番組『週刊安全保障』で北朝鮮情勢をどう報じ、世界のメディアはどう連携すべきかといった考えを紹介。世界各国から集まった聴衆による質問や意見交換も行われました。「SXSW」では、貧困や難民、民族の対立、銃犯罪の問題など社会課題の解決に向けた取り組みが重要視されていて、公式セッションに採用されたのは、『ホウドウキョク』の取り組みが評価されたものです。



能勢伸之解説委員

社会のために

環境のために

子どもたちの
未来のために

災害復興支援

視聴者とともに

人材育成と職場環境

マネジメント



“自社批評”番組が27年目に

『週刊フジテレビ批評』 [毎週土曜日 5:30~6:00放送]



自局の番組やテレビ界に関する様々なトピックスをお茶の間に届けるこの番組は、民放初の自社批評番組として1992年にスタートしました。その内容は、視聴者の声や番組審議会の模様を紹介する他、バラエティ番組やドラマ・ニュース番組制作の舞台裏を披露したり、4KやVRなどの最新放送技術を解説しています。また視聴率やBPO、放送法などに関する視聴者の疑問に答えることで、“テレビ”をより深く理解してもらい「メディアリテラシー」の向上につながるよう番組作りを続けています。



視聴者と番組をつなぐ架け橋

視聴者サービス推進室はフジテレビの“耳”や“目”として、電話やホームページなどで頂いた視聴者からの様々なご意見やお問い合わせを、番組制作者や関係各部署に伝えています。そして「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」といった基本的なコミュニケーションを大切に、視聴者の言葉に耳を傾け、その内容に目を配っています。当たり前のことかもしれませんが、このような姿勢が視聴者から率直なご意見を伺う関係を築けるものと考えています。これからの“視聴者に愛される”フジテレビの視聴者サービス推進室をめざしていきます。

■ 2017年度に頂いた視聴者の声

電話でのご意見	約16万件(1日平均440件)
メールでのご意見	約37万件(1日平均約1,020件)



番組審議会

番組審議会は、放送番組の適性を図るため、放送法に基づき設置されている審議機関です。

2018年4月現在、有識者で構成された審議委員は9人。月に1回(8・12月は休会)、様々なジャンルの番組を審議対象に委員から忌憚のないご意見やご指摘を頂き、社長、担当役員、局長他、番組担当者とのディスカッション等を行っています。議事内容は制作現場へフィードバックされ、番組作りに活かされています。また議事録ダイジェストを社内にも共有、概要はホームページに掲載する他、『週刊フジテレビ批評』内でも放送し公表しています。

社外モニター制度

一般視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対するご意見を伺っています。アンケート結果や詳細なレポートは制作担当者に届けるとともに、社内イントラネットへの掲載や冊子の配布を通じ、社内にも共有しています。また月に1度「社外モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について直接意見交換を行っています。



人材育成

人材の多様性

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。新卒採用では、海外の大学を卒業する留学生や、日本の大学を卒業する外国人留学生の採用も行っています。障害者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。また、定年を迎えた社員も65歳までの継続雇用を行い、それまでの経験を活かした業務や後進育成を担っています。採用活動とは別に、仕事の理解を深めてもらうためアナウンサー、バラエティ、ドラマ、報道、情報、スポーツ、美術、CG、技術部門で学生に向けた就業体験を行っています。



2017年度新入社員たち

研修制度

社員ひとりひとりが自らの成長を実感しながら日常の仕事に取り組めるように、様々な研修制度やセミナーの充実を図っています。

QOH(Quality Of Health)プロジェクト

コンテンツ事業センターは、社員・スタッフの健康の「質」向上をめざして様々なセミナーを開催。また管理職を中心にメンタルヘルスマネジメント検定を受験しています。



顔面セルフマッサージ講座

働きやすさを支援する制度

社員が働きやすい職場環境を実現するために会社の制度としてサポートする体制を整えています。

育児支援

最大2時間までの時短を小学校1年生の5月末までの希望する期間取得できる他、養育のために小学校就学前まで休職することができます。復職の際は、スムーズな職場復帰をサポートするために先輩社員と懇談の場を設けています。ベビーシッターや学童保育などの利用には特別補助もあります。

復職支援

長期の傷病休職から復職する際に、円滑に復職できるように、復職支援制度を設けています。

社員の個人的な社会貢献の支援

個人的に社会貢献を行う際、活動内容を会社に申請することで、休暇を取りやすくなるように支援しています。

介護支援

家族に介護が必要になった場合、1年間の介護休業などを取得できます。また介護用品の購入や訪問介護の利用に特別補助を行っています。

疾病予防への取り組み

疾病予防への取り組みとして、定期的な健康診断に加えて、人間ドッグ、脳ドッグ、婦人科検診の受診サポートをしています。また、生活習慣予防指導の一環として、対象者に「生活改善プログラム」への参加を促したり、食堂で「産業医おすすめバランスごはん」「サラダバー」など、栄養バランスを考えたメニューを提供しています。また、毎年様々なセミナー(ストレッチ等)も実施して、スタッフの健康維持に努めています。

献血の実施

血液が不足する冬季に日本赤十字社に協力し、社内で献血活動を行っています。

女性活躍推進

女性活躍推進法

女性活躍推進法に基づく行動計画として次の2点を目標としました。

目標1 「採用した労働者に占める女性労働者の割合」が30%以上になるように意識して採用活動を進める。

目標2 「労働者に占める女性労働者の割合」で20%以上という国の定める目安の値を中長期的な期間でも維持できるように努力する。

平成29年度
採用実績 **33.3%**

平成30年3月末
実績 **24.7%**



コーポレート・ガバナンス

フジテレビは、国民共通の財産である電波を預かり放送事業を営んでいます。そのため基幹メディアとして、緊急災害放送などライフラインの機能を維持し、責任あるコンテンツを送り届けるという使命を担っています。テレビが国民にとって身近なメディアであり、社会に与える影響が大きいことを十分に認識し、放送の公共性を重んじ、放送内容が国民の基本的な人権を擁護するものとなるよう努めることで、社会的責任を果たして参ります。

■ 放送倫理手帳

放送人としての基本的な規範をまとめた「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」(一般社団法人日本民間放送連盟発行)を全社員・スタッフに配布しています。



業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

業務の適正を確保するための体制

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、ならびに損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 当社の取締役及び使用人は、当社の経営理念・経営基本原則に基づいて制定したフジテレビ行動宣言を常に意識し、その遵守に努めます。特に番組制作や報道取材などにおいては、放送の公共性を重んじ、言論・表現の自由を守るよう努めます。
- (2) 当社は、「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」(以下「コンプライアンス等規程」という)等に基づき、当社の社内体制の整備等を行い、法令・定款遵守の実効性の確保を図ります。

① 組織体制

当社の代表取締役社長は、「コンプライアンス等規程」等に基づき、当社の当該関連業務を統括・推進します。また、当社取締役・執行役員等を構成メンバーとするコンプライアンス及びリスクの管理等に関する委員会(以下「コンプライアンス等委員会」という)、及び中堅社員を構成メンバーとするコンプライアンス等担当者会議を組織化することによって、当社の経営及び事業全般に重要な影響を与えるコンプライアンス上の問題ないしはリスクへの対応を図ります。

② 教育・研修

当社は、適宜、社内説明会の開催や、イントラネット及び社内報などへの関連資料の掲載などにより、当社の取締役及び使用人の当該プログラムへの周知と、その理解を促進する活動を行います。また、当社はコンプライアンス及びリスクの管理に関する定期的な社内研修を実施する他、コンプライアンス等担当者は各部署において、意識を高める活動を展開します。

③ 財務報告の信頼性

当社は、当社の業務が健全に行われるよう十分に配慮しつつ、財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムの構築に努めます。

④ 内部監査

当社は、「内部監査規程」に基づき、当社の全部門と当社子会社を対象として、会計及び業務に係る定期監査ならびに臨時監査を行い、当該会社の業務全般が法令、定款及び社内規程に照らして適正かつ有効に行われていることを確認します。

2.取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社の取締役の職務の執行に係る情報については、これに係る当社の管理規程に基づき、その保存媒体に応じて適切かつ確実に検索性の高い状態で保存・管理し、所定期間、閲覧可能な状態を維持することとします。

3.取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役は、効率経営の確保に向けて、業務の合理化・迅速化等を継続検討します。

4.当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社及び当社の子会社(以下「当社グループ」という)から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制について、以下の通り、整備・実施します。

- (1)当社は、当社の子会社の取締役及び使用人が法令、定款、社内規則及び企業倫理等を遵守した行動をとり、かつ、効率的な業務執行が行われるよう、「関係会社管理規程」等に基づく横断的な管理を推進します。
- (2)当社は、当社子会社がその業容と会社規模に応じ、自律的にコンプライアンス及びリスクの管理が機能する体制の構築を推進するとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクへの対応については、当社が状況を的確に把握する体制を構築します。
- (3)当社は、親会社である株式会社フジ・メディア・ホールディングスとも連携を図り、子会社各社におけるコンプライアンス及びリスクの管理が機能する体制づくりを推進します。

5.監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、監査役を補助する使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性に関する事項

当社の監査役は、監査役間の協議に基づいて、監査役スタッフを任命します。監査役スタッフは、監査役の職務の補助、及びこれに付随する事務を行います。なお、これら業務については、職務分掌において、当社の総務部が担当することを定め、監査役スタッフは当社従業員として当社の就業規則に従いますが、原則として、その指揮命令権は各監査役に属し、取締役は監査役スタッフに対する指揮命令権を有しないものとします。また、監査役スタッフの人事考課、人事異動及び懲戒等については、監査役の意見を徴するものとします。

6.当社の取締役及び使用人、ならびに子会社の取締役、監査役、及び使用人(以下本校において、「当社グループの取締役等」という)が、当社の監査役に報告を行うための体制

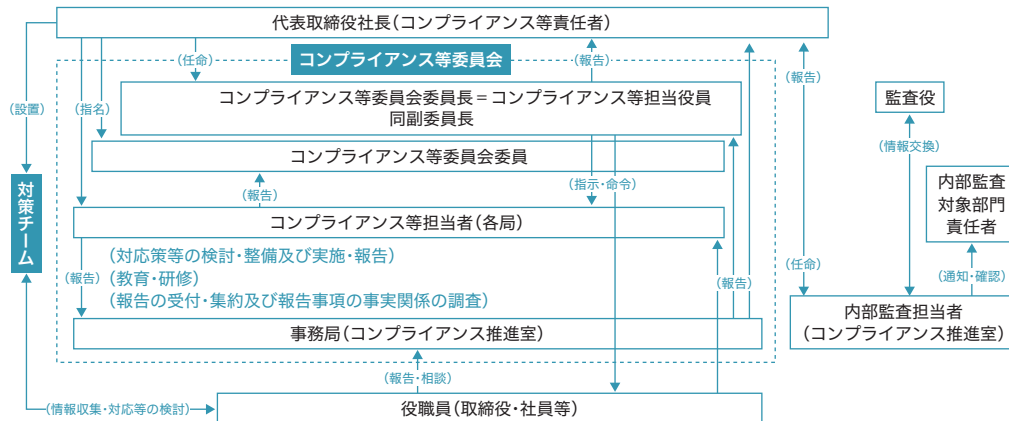
当社グループの取締役及び使用人等が、当社の監査役に報告を行うための体制について、以下の通り整備・実施します。

- (1)当社グループの取締役等は、以下に定める事項について適宜報告を行います。
 - ①業務又は財務に重大な影響を及ぼすおそれのある事実(当社グループ各社に関するものを含む)を知った場合。
 - ②取締役及び使用人の職務遂行に関して不正行為、法令・定款・社内規則に違反する事実(当社グループ各社に関するものを含む)を知った場合又は社会通念に反する行為が発生する可能性もしくは発生した場合で、当該事実又は行為が重大である場合。
 - ③その他緊急・非常事態を知った場合。
- (2)当社グループの取締役等は、当社の監査役に対し、以下に定める事項について定期的又は必要に応じて報告を行います。
 - ①毎月の月次会計資料
 - ②内部監査報告書及び各部門からの主要な月次報告書
 - ③重要な訴訟事案
 - ④内部統制に関わる部門の活動概要
 - ⑤重要な会計方針・会計基準及びその変更
 - ⑥業績及び業績見込みの発表内容、重要開示書類の内容



- ⑦当社グループ各社における営業の報告
 - ⑧当社グループ各社の監査役の活動概要
 - ⑨その他重要な事項等
- (3) 当社グループの取締役等は、当社の監査役からその職務の執行に関する報告を求められた場合、速やかに当該事項を報告します。
- (4) 当社グループの取締役等が、上記(1)(2)(3)に該当する報告を当社の監査役に対して行ったことを理由として、不利益な取り扱いを受けることがないことを社内規程等に定めます。
- (5) 監査役の職務全般にかかる費用は当社が負担するものとします。

内部統制の仕組みは以下の通りです。



▼業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要につきましては、フジテレビホームページをご覧ください。
<http://www.fujitv.co.jp/csr/management/governance.html>

情報セキュリティ

フジテレビは、「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」を定め、全社的に情報セキュリティの考え方(「情報セキュリティガイドライン」)を周知徹底しています。また昨今、急増するサイバーテロによる個人情報流出に備え、昨年度、ITリスク対応会議を発足させ対応に努めています。あわせて、フジテレビの個人情報の保有状況、管理方法等も調査し、体制を充実させました。

▼詳しくはこちらをご覧ください。フジテレビ情報セキュリティ基本方針
http://www.fujitv.co.jp/csr/management/security_basic_policy.pdf

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

2011年10月、東京都暴力団排除条例が施行され、これを受けて日本民間放送連盟(民放連)が「反社会的勢力に対する基本姿勢」を発表し、「出演契約における反社会的勢力排除についての指針」をまとめ公表しました。適正な社会秩序維持に脅威を与える反社会的勢力との関係を遮断することは社会的責任であり、また、会社資産の流出等の防止はもとより企業防衛に資するものと考えます。フジテレビは、この民放連の「基本姿勢」と「指針」を遵守し、施策を講じております。

▼詳しくはこちらをご覧ください。
「日本民間放送連盟HP」<http://www.j-ba.or.jp/>

コンプライアンス

フジテレビでは、放送の公共的使命と社会的責任を認識し、全ての人々が平和に共存し、心身ともに健やかな生活を維持できる世界の実現につとめることを番組編成の基本として掲げています。自主自律・不偏不党の立場を堅持し、公平かつ平和で自由な社会を守るために、真実の伝達と品位ある放送を行うことで「メディアとしての使命」を果たすとともに、放送以外においても「法令遵守への高い意識」を持ち続け、社会からの信頼に誠実に応えて参ります。

▼詳しくはCSRホームページ内「内部統制」をご覧ください。
<http://www.fujitv.co.jp/csr/management/governance.html#internalcontrol>

フジテレビのコンプライアンス体制

フジテレビでは、「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」に則り、コンプライアンス体制を整備しています。

フジテレビの取組み

■ eラーニング コンプライアンス研修

フジテレビで働く社員・全スタッフを対象(約4,350人)に毎年「eラーニング コンプライアンス研修」を実施しています。考査や法務、コンプライアンスの相談例を元に「具体的な問題」を多く導入し、より実践的な研修をめざしています。



eラーニング コンプライアンス研修2018

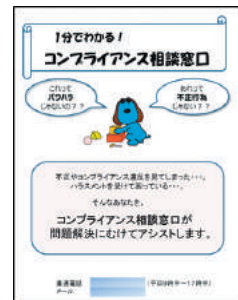
■ 番組制作向上ワーキンググループ

コンプライアンス等委員会に紐づく形で2014年9月に発足したワーキンググループです。

制作現場のみならず、非制作セクションからもメンバーが参加し、“より視聴者に近い率直な目”を加えて、各番組の演出や具体的事例について意見交換を行う会議です。2017年度は5回開催し、番組に関わるトラブルやコンプライアンス事例の検証・検討を行いました。

■ コンプライアンス相談窓口

2009年以来、法令違反、コンプライアンス違反の防止と早期是正を図るため、「コンプライアンス相談窓口」(以下、「相談窓口」という)を設置しており、フジテレビ社員だけでなく、フジテレビ局内で働く全ての関係者を対象とし、相談窓口担当へ直通電話もしくはメールにて通報できることとなっています。



リーフレットを作成して配布

■ 標的型メールの体験型訓練

情報漏洩を防止するため、社内にて「ウイルス標的型メール」の体験型訓練を実施、社員への注意喚起を促しました。また、社員及びスタッフに情報セキュリティの重要性を啓蒙するため、2017年度もeラーニングで情報セキュリティ研修を実施しました。



ウイルス標的型訓練のメール画面

児童・青少年への配慮

民間放送連盟では「青少年と放送」問題に関する対応策(1999年6月)を打ち出し、「青少年向けの放送番組の充実」を掲げ、民放連会員テレビ局各社は「青少年の知識や理解力を高め、情操を豊かにする番組を各放送事業者は少なくとも週3時間放送する」と申し合わせており、毎年その番組を選定しています。2017年秋にフジテレビが選定した番組は以下の6番組です。



©Ludorum/フジテレビ

©さくらプロダクション/
日本アニメーション

©長谷川町子美術館

▼詳しくはこちらをご覧ください。
「日本民間放送連盟HP」<https://www.j-ba.or.jp/>





牛島 慶一

Keiichi Ushijima

EYジャパン

気候変動・サステナビリティサービス(CCaSS)リーダー プリンシパル

大手生保にて業務・営業企画担当後、2002年日立製作所入社、企業の業務・組織改革を支援。2005年より日立全体のCSR・サステナビリティ戦略に従事。事業開発支援、経営品質向上、包括的リスクマネジメント、戦略的コミュニケーションを担当。CSRと経営の融合を推進し、プロセスのグローバル展開、社の理念及びグループビジョン実現に尽力。2014年よりEYサステナビリティ関連サービス(Climate Change and Sustainability Services)のジャパン・エリア・リーダー。国連グローバル・コンパクト人権と労働作業部会委員。

近年、SNSの普及などで若者のテレビ離れが進む一方、報道の中立性や人権尊重といったメディアとしての責任も注目されている。今まさにフジテレビのビジネスモデルの進化が求められている。一視聴者として率直なところ、日本には5つの主要民放が存在するが、どれも同じニュースに同じタレントが似たような番組を提供しているように感じる。フジテレビが無くてはならない社会とはどのような社会だろうか。同社はその答えを見つけようと努力している。

CSRには主に2つの側面がある。まずは事業を通じて及ぼす負の影響に対する責任だ。こちらは法的な責任のみならず、道義的な責任(社会的責任)も含まれる。経営者の倫理観とガバナンスが重要となる。もうひとつは事業を通じて社会に提供する価値だ。こちらは、放送事業を通じてどのような社会をめざすかといったビジョンが必要だ。いずれも企業が単なる情報発信ツールとしてではなく、企業市民として意思を持った存在である事が問われる。こうした目線で2017年度のCSR活動を振り返ってみる。まず、メディアの責任において社会的に関心の高い課題は人権だ。そのような中、フジテレビは2017年に放送を通じて犯した過ちを受け入れ、これをきっかけに社内の

人権啓発を強化するなど、ネガティブ情報を隠したがる企業が多い中で報告していることは好感を持てる。一方、実際はこうした差別問題だけでなく、子供の権利や国民の知る権利の尊重も同様に重要だ。これらの人権を侵害しない責任は、メディアの最大の責任と言える。今後、こうした問題にも説明責任を果たしていくことが期待される。

他方、社会に対する価値提供では、気候変動問題を扱った環境ドキュメンタリー『環境クライシス』は、フジテレビが変わったと思わせるものだった。何より、視聴者に国際社会の課題について考えるきっかけを与えた点は、テレビが一過性のものでなく、社会にポジティブなレガシーを残せることを証明した。視聴率偏重、大衆迎合型の放送が多い昨今、フジテレビの今後を期待させる番組だった。

今後、SDGsなど地球社会の基本課題解決に、日本のビジネスや人々の参画・貢献が期待されている。フジテレビが一歩先の世界を見据えて、世代を超えて多様性を生かしながら、社会との共有価値を一貫した姿勢で積極的に発信していくことを期待したい。

(注)本第三者意見は、本報告書の内容をEYとして保証、認証、評価しているものではありません。

ご意見を受けて



小田 多恵子

Taeko Oda

CSR担当
総務局
放送文化推進センター
放送文化推進局長

貴重なご意見を頂き、ありがとうございます。テレビにおけるCSR(社会的責任)について、事業が負の影響をもたらす場合の責任と、事業を通じて社会に提供する価値の2つの側面があることについてのご指摘はしっかりと受け止めたいと考えます。

人権と環境問題は世界的にも大きなテーマであり、持続可能な社会の実現のために国を越えて各企業が取り組んでいます。テレビが今後広く支持されるメディアであり続けるためにできることは何か?それはやはり“伝える責任”を果たすことだと考えます。フジテレビの人権への取り組みや『環境クライシス』への評価を頂いたことは大きな励みになります。メディア企業として放送を通じての社会課題の解決は私たちに課せられた重要なテーマのひとつであると考えます。放送のみならずフジテレビが発信するものが社会にとって有益で公共性の高いものか?人々の生活をより豊かなものにできているか?子どもたちの未来をつなげるものになっているか?自問しながら広くステークホルダーに支持される企業となるべく今後も取り組んで参ります。

持続可能な開発目標(SDGs)

2015年の9月に国連で開かれた「国連持続可能な開発サミット」で、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標をかかげました。この目標が、ミレニアム開発目標(MDGs)の後継であり、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」です。



- 目標1：あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
- 目標2：飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
- 目標3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
- 目標4：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 目標5：ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
- 目標6：すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
- 目標7：すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- 目標8：すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する
- 目標9：レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る
- 目標10：国内および国家間の不平等を是正する
- 目標11：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする
- 目標12：持続可能な消費と生産のパターンを確保する
- 目標13：気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
- 目標14：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
- 目標15：陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
- 目標16：持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 目標17：持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

会社概要

商号 株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
 事業所 本社 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号
 TEL:03-5500-8888(大代表)
 設立 平成20年10月1日(新設分割による)
 放送開始 昭和34年3月1日
 資本金 88億円
 従業員数 1,340名(2018年3月31日現在)



フジテレビCSRレポート2018
 2018年6月22日発行

ホームページでもCSRの取り組みを開示しています。
<http://www.fujitv.co.jp/csr/>



